

平成２８年度 長野県上田高等学校入学式 式辞

春爛漫（はるらんまん）の言葉のとおり、木々に緑が映え、種々の花々が咲き、光あふれる季節を迎えました。

この、すべてのいのちが輝く今日の佳き日に、日頃から本校に格段のご高配をいただいておりますご来賓の皆様並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、平成２８年度長野県上田高等学校入学式を挙行できますこと、誠にありがたく、まずもって厚く御礼を申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました、全日制３２４名、定時制２７名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本校は、変則中学校・中学校支校等を経て、明治３３年、西暦１９００年に長野県上田中学校となって以来、今年で１１７年を数える、歴史と伝統に輝く高等学校です。

また、本校は、ＮＨＫ大河ドラマ『真田丸』の第１回放送でも取り上げられたように、真田信之以来の歴代上田藩主居館跡地にあり、本校正門、通称「古城の門」は、藩主居館の表御門として使われていたもので、塀、濠、土塁をあわせて、上田市文化財に指定されています。

その門を囲うように例年より早く開いた桜の花が、本日入学する皆さんを迎え、祝うがごとく彩りを添えています。

保護者の皆様、本日は、お子様のご入学、誠にありがとうございます。

お子様が、充実した高校生活を送り、人として大きく成長することができるよう、私ども教職員一同、全力を尽くしてまいりますので、何卒本校の教育方針をご理解いただき、ご支援とご協力を賜りますとともに、よりよい学校を共に創るパートナーとして手を携えてくださいますよう、お願い申し上げます。

さて、入学生の皆さん、皆さんは、本校を志望校と決め、地道な努力を積み重ね、難関を突破し、夢と希望を抱いて、本校に入学して来ました。

ようこそ、上田高等学校へ。

心から歓迎します。

本校には「文武両道」「自学自習」という伝統があり、加えて、昨年度から、国際的素養を持ったグローバル・リーダーの育成を目的とした、文部科学省のスーパーグローバルハイスクールの指定を受けました。

「文武両道」というのは、勉強と班活動の両立というように受け止められがちですが、私

はもう少し広く、例えば生徒会活動や自分で手を挙げればできるようなことも含めて、学校生活のいろいろな活動を何でも一生懸命やる、という意味に解釈しています。

「自学自習」とは、学びのスタンスです。わからないことはもちろん訊けばいいのですが、基本的に学びというのは誰かに言われて嫌々やるものではなく、モチベーションに裏付けられた自分の意志で、強く深く行なうものだということです。

そして、スーパーグローバルハイスクールに指定された本校で学んできた皆さんの先輩たちは、真の学びというのは机の上で完結するものではなく、人の命を救うもの、世界平和を築くためのもの、社会や世界をよりよくするためのもの、としてとらえることができます。

私たちは、皆さんに、充実した高校生活を送り、「この学校に入学してよかった」という満足感を持ちながら卒業して行ってほしいと願っています。

私たちは、皆さんに、高校時代も、そして高校卒業後も、自分を大切にし、自分の幸福を追求するとともに、多様な人たちと交流し、受け入れ、自分以外の人たちの幸福を願い、そのために尽力できるような人になってほしいと願っています。

私たちは、皆さんに、現在ある常識や前例といったものが本当に正しいのかを批判的に見る目を持ち、正しいデータや資料を基に、自分の頭で考え、自分の頭で判断し、自分の意志で行動し、その責任を自分で取れる人になってほしいと願っています。

私たちは、皆さんに、強い想いや高い志を持ち、それを借り物でない、自分の言葉で語り、その想いや志を仲間とともにカタチにできる人になってほしいと願っています。

私たちは、皆さんに、地元や地域に向けるまなざしと同様にグローバルな視野を持ち、新しい時代にふさわしい新しい価値や未来を創造できる人になってほしいと願っています。

現代は激動の時代と言われ、グローバル化の時代と言われます。

正解のない時代と言われ、閉塞感に満ちた時代とも言われます。

新入生の皆さんは、これからの3年間、あるいは4年間、毎日古城の門をくぐり、この学校に通うことになります。

本校は、その気にさえなれば、やりたいことが何でもできる学校です。

本校での一日一日、一時間一時間の学びが、皆さんにとっての血となり肉となること、そしてその結果、皆さんが、このような時代を逞しく乗り越えていける、豊かな感性や強い想い、高い志を持ち、本当の意味の学力を身に付け、本校を巣立っていくことを願って式辞といたします。

平成28年4月6日 長野県上田高等学校長 内堀 繁利